

1 学校教育目標
① 本校の綱領「礼節」「勤労」「進取」の精神を念頭に、全職員一体となって愛情と信頼を基調とした教育を実践し、心豊かで調和のとれた社会に貢献できる人材の育成を図る。
② 「磨き 鍛えん 青春の志高く」を共通の指導理念とし、進路希望の実現のために真摯に努力する元気澁刺とした生徒の育成を図る。

2 本年度の重点目標
熊本県教育委員会から示された「平成28年度県立中学校・高等学校における教育指導の重点」の趣旨に沿い、全職員が一丸となり、本校定時制に学ぶ生徒たちの現状を踏まえ、以下の項目の実現に努める。
①出席率の向上 ②就労率の向上 ③授業改革・基礎学力の向上 ④学校行事の活性化
⑤進路指導の充実・自己実現 ⑥校務改革・多忙化解消

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校経営方針	本年度の重点目標の達成	全職員が目標を共有し、全ての目標に於いて前年度を上回る。出席率と就労率は共に8割以上を目指す。また、中途退学0を目指す。	職員一人ひとりが生徒の状況を把握して保護者の協力を得ながら励まし、出席率の向上に努め、また、積極的に就労の場の紹介を行う。中途退学に伴う不利益を機会ある毎に諭す。	B	生徒情報連絡会を通して、生徒の状況について全職員で共通認識を持って指導に取り組んだ結果、出席率は(88.2%)と次年度9割以上を望める段階にまで到達した。一方、就労率については、(66.7%)であり、目標の8割以上という成果をあげることができなかった。中学次に不登校傾向であった生徒については、まず出席であり、就労は次のステップといった状況である。 また、中途退学者は1名(2年生1名)、進路変更者は1名(1年生1名)であったが、いずれも生徒本人の強い意志に基づくものであり、早い段階での選択により、その後有意義な生活を送っている。
		保護者との連携	秀麗会総会等の各種行事への保護者の参加率を5割以上にする。	日頃から保護者との連絡を密に取ることで、保護者との連携を強化し、保護者が各種行事へ参加しやすい環境づくり		B

	教員の資 質向上	教科指導力・生徒指導力及び進路指導力の向上	生徒の実態に応じた指導力を身に付けることで、3つの観点において、生徒の満足度が9割以上になることを目指す。	に努める。 教科指導力向上のために、公開授業を積極的に行う。生徒指導については、生徒情報連絡会を週1回開き、情報の共有に努め、全職員で取り組む。進路指導については、進学に関する説明会に積極的に参加すると共に、全教育活動を進路指導の充実に繋げる。	B	公開授業には多くの職員が参加し、教科指導力向上に繋げることができた。 生徒指導については、生徒情報連絡会を1回開き、全職員共通理解をもった生徒指導を行うことができた。 進路指導については、企業見学や進路講話等に全職員で参加し、全教育活動を進路指導の充実に繋げている。 教科指導力、生徒指導力、進路指導力の生徒の満足度はいずれも(84.2%)であり、目標達成まであと一息のところであった。次年度は9割以上を達成したい。
		不祥事の防止	職員の不祥事0。	各学期に不祥事防止のための研修を行う。	A	全日制との合同職員研修や、定時制における研修を実施したことにより、不祥事ゼロを達成した。
学力向上	学習習慣の確立	授業を受ける姿勢の更なる改善	授業中の態度の改善及び遅刻や中抜けする生徒の数を減らす。	生徒に関する情報を職員間で共有し、共通理解を図る。更に、内規や取り決め事項を厳格に適用する。	B	職員間の情報交換を密にし、共通理解をもった指導を行うことにより、授業を受ける態度や中抜けについては改善した。 遅刻の指導については、登校指導による声掛けや、担任以外の教師による個別面談を実施してきたが、今後も粘り強く指導を継続し、保護者の協力を得ながら、更なる改善に努めたい。
		学習習慣の向上と自ら学ぶ習慣づけ	課題テストの成績の向上と総合的な学習性の活性化を図る。	課題テストを年間6回実施する。課題の配付を早めに行い、事後指導を充実することで、学習意欲を向上させる。	B	定例の課題考査が生徒に定着した。意欲的に取り組む生徒が一層増えるよう働きかけたい。 総合的な学習の時間は創作活動や、体力・健康の増進をはかった内容を計画的に展開するな

						ど、内容の充実も図れた。
	学力向上	成績の向上	欠点保持者数及び欠点科目数の昨年比減を図る。	授業改革を一層進め、分かり易い授業の展開や教材・教具の工夫を図る。	A	各教科ともわかりやすい授業を心掛け、公開授業や研修に積極的に参加するなど、指導力の向上に努めた。 欠点保持者、欠点科目数ともに昨年度比減を達成した。
		自ら学ぶ意欲を引き出す指導	個に応じた指導を展開する。	生徒の要求や進路目標に応じた個別指導や添削を実施する。	B	漢字・計算などを内容にした適性小テストや、危険物取扱主任者試験対策など、生徒の個々の進路目標に応じた個別指導ができた。
キャリア教育(進路指導)	進路意識の向上	職業観の育成	正規社員としての働くことの意義や内容を具体的に理解する。	外部講師による進路講話や校内学習を通じて、必要とされる職業観を育成する。	A	1, 2学期にそれぞれ進路講話を実施し、校内学習を通じた職業観の育成により、就職意識の高揚を図ることができた。
		就労指導の充実	進学の学習重視の生徒もいるため、生徒の就労率は短期アルバイトを含め8割台を目指す。	服装や言葉遣い等を含めた接遇マナーの向上を図り、求人情報の収集や面接指導を行いながら、ハローワークと連携して、希望する就労先探しに協力する。	B	アルバイトを含め、6割台の就労率である。希望する内容の仕事を探していたり、中学時の不登校傾向の改善を優先させ、まずは出席率を上げることから指導している。スモールステップではあるが、徐々に就労に対する意欲も出てきている。
	進路保障	進学・就職の決定	卒業予定者全員が進路先を内定及び合格して卒業を迎える。	ライフプランニングや職業講話等で知識を学び、課題テスト等を通して基礎学力を身に付け、実力を発揮して内定や合格を獲得する。	B	就職希望者6人中、4人が内定を得たが、まだ2人が未決定である。県外求人や地元求人を希望しているが、本人の希望する職種を見つけない生徒もいた。 ハローワークと連携して求人情報の収集に努め、職業講話や企業見学等を実施することができた。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	はじめのある生活	遅刻、欠席を減らす習慣をつける。	毎日のホームルームにおける正副担任による指導はもとよ	B	欠席については、必ず担任に届けるよう指導した結果、無断欠席の生徒はほとんどいなくな

				り、1年生については6月初めに運営委員による面接を実施し、高校生生活のスタート状況を確認する。また、家庭との連携を密にとる。		った。2学期には1学期からの長欠者も登校するようになり、出席率も向上している。 1年生については運営委員による面接を実施した結果、定時制で頑張る心構え等を指導することができた。 今後も家庭との連携を密にとっていく必要がある。
	生徒会活動及び学校行事の活性化	生徒の主体的活動の支援	生徒にとって、やりがいのある行事を精選・実施し、学校生活を充実したものにす。	生徒会が生徒会行事を立案・実施し、生徒が主体的に取り組むことによって、自己肯定感を育む。 保護者・同窓会・地域との連携により、活性化を図る。	A	生徒会執行部の生徒が中心となって企画立案し、全ての行事において生徒が主体的に取り組む姿勢が見られた。 定通体育大会に向けた練習には意欲的に参加し、成果もあげた。 校内文化クラブ発表会では、ステージ発表、展示、バザーなど充実した取組ができた。 今後は保護者・同窓会・地域との連携も、更に活発に行いながら、より充実した活動を目指したい。
人権教育の推進	人権を尊重する姿勢	人権を尊重する姿勢をもった指導	教師・生徒共に人権を尊重した姿勢をもつ。	年に1度、人権同和教育講演会を実施して、職員及び生徒の意識の向上を図る。また、職員研修を計画し、職員の更なる意識の向上を図る。	A	LHRの時間を活用して、人権同和教育講演会を実施し、障がい者の人権について、職員及び生徒の意識の向上を図った。 職員研修を通して同和教育の啓発等をより活発化することが課題である。
	命を大切にすることを育む指導	生徒一人ひとりが自他の命を大切にすることを育む指導	学期に1度職員への人権教育研修を実施すると共に、命の大切さを生徒に対して考える機会を設ける。	人権教育に関する研修の中だけでなく、全ての教科指導の中で積極的に命の大切さを取り扱う。	B	4月の熊本地震を受けて、授業等の様々な場面で取りあげることにより、改めて命を大切に考え、家族や周囲の人たちを大事にする気持ちが強くなった。
いじめの防止等	生徒の状況把握	いじめの根絶と情報の共有	いじめの解消率を100%にし、いじめ	アンケート調査、生徒情報連絡会を	A	6月の「いじめ」根絶月間には、本校独自の「いじめ防止

			の兆候があった場合は、職員間で連携をとり、情報の共有を行う。	通して、いじめの兆候については早い段階で把握し、迅速に対応する。		アンケート」、11月には県作成の「心のアンケート」を実施したが、いじめと思われる事項はなかった。今後も生徒情報連絡会を充実させていきたい。
	いじめの予防	「心のきずなを深める月間」の充実	互いに尊重し合う態度や気持ちを持ち、互いを思いやれる関係や信頼し合える関係を「絆」として深めていけるようにする。	「人定いじめゼロ宣言」を作成するために、生徒・保護者・教職員の三者が絆を深める大切さを説き、「くまもと家庭教育10か条」を完成させる。	A	「人定いじめゼロ宣言」を作成できたことにより、生徒一人ひとりがそれに向かい、いじめアンケート等にも該当者はないなど、人権に対しての意識の高揚が見られた。各家庭においては、「くまもと家庭教育10か条」を完成している。今後は家庭との連携をこれまで以上に強めることで、更なる成果があらわれることを考えていきたい。
校務改革	多忙化の解消	業務の効率化	業務内容を精査し、効率化を図ることにより、生徒と向き合う時間を確保する。	職員一人ひとりが課題を抱え込むことが無いように、全職員で取り組む意識を高揚させる。また、保護者との連携により、生徒の基本的な生活習慣を確立させることで、負担感を解消する。	A	生徒情報連絡会を通じて、個々の生徒の課題を全職員で早期に把握し、全職員が課題解決のために多方面から支援を行っていくことにより、担任が一人で抱え込むことが無いようにしている。その結果、職員室の雰囲気も明るく、保護者との連携についても頻繁に行われるようになった。

<p>4 学校関係者評価</p> <p>1 学校評価表（自己評価）について内容や評価は適切であるか。</p> <p>(1) 学校教育目標について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の綱領を念頭に、心豊かで調和のとれた社会に貢献できる人材育成。また、進路希望の実現のために、真摯に努力する生徒の育成という素晴らしい目標だと思う。</li> <li>・基本目標は、全日制・定時制・五木分校共に統一され、整合性が保たれており、内容も格調高いものになっている。このスタイルを今後も継続して欲しい。</li> <li>・「礼節」「勤労」「進取」の精神を念頭に、励まし、愛情を持って教育して頂いていることに対してありがたく思う。</li> <li>・「全職員一体となって生徒の育成を図る」がとても良いと思う。</li> <li>・全日制と同じである必要は無いが、重点目標でカバーしているので良いと思う。</li> </ul> <p>(2) 学校評価の内容や方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート生徒・保護者・職員同一項目集計結果など、とても分かりやすく、三者三様の思いが表れている。項目も簡潔で分かりやすい。</li> </ul>
---

- ・内容・方法共に適切である。生徒・保護者・職員との比較表を示されており、評価が分かりやすく、工夫されている。
- ・内容、評価ともに適切であると思う。生徒一人で変動が大きいということはあると思うが、「勉強と仕事の両立に努力」の項目で、生徒の「D」が多いことが気になる。
- ・出席率向上と仕事との両立、学校の行事等にも工夫をされ、努力をされていると思う。
- ・保護者もほぼ全員回答されているのが良いと思う。

### (3) 学校評価の結果について

- ・本年度重点目標達成のために、全職員の方が一丸となり取り組まれている。今後も一つ一つ着実にクリアして欲しい。
- ・生徒、保護者ともB以上の評価が多く、満足いく生活を送っていると思う。
- ・生徒数が少ないため、数値の矛盾も考慮しながら検討すべきである。三者間において、それぞれの立場での認識の違いに注目する必要がある。
- ・内容、評価ともに適切であり、評価結果も良好であると思う。授業評価アンケートが高い評価であることは、先生方の努力の賜ではないかと感心した。
- ・アンケートの数値と先生方の内容で、評価されていると思う。
- ・A評価が多く、とても良いと思う。
- ・前年は生徒でまじめに回答したのか、疑問に感じた所もあったが、今年は正直に答えていると思う。結果に対して信頼できる。

## 2 教育活動・その他の学校運営の改善に向けた取組は適切であるか。

### (1) 学校経営について

- ・生徒の状況について、全職員共通理解をもった生徒指導が行われていると、先生方の努力がわかる。問題も多いと思うが、一つ一つクリアして欲しい。
- ・定時制でも定員確保のための広報活動の必要性を感じる。出席率・就労率の向上について、又退学者防止への取組等、職員の努力の跡が伺える。
- ・取組は適切であると思う。出席率が9割近くになっていることは素晴らしいと思う。就労率については、今後、目標の8割の達成が十分にできる土台ができてきたと思う。今後に期待する。
- ・一人ひとりが定時制の場合は、家庭の環境もあるので、努力されていてありがたいと思っている。
- ・日頃から生徒、保護者と連携しながら、出席率、就労率を上げているようで、先生方のご苦勞が伺える。
- ・保護者の学校に対する信頼の高さに驚いている。今のやり方を続けていけば、良い結果が出てくると思う。

### (2) 学力向上について

- ・自ら学ぶ意欲を引き出す指導として、進路目標に応じた個別指導や添削の実施は、学力向上に繋がると思う。継続して欲しい。
- ・時間の制約の中で、学ぶ時間の確保の工夫が必要である。家庭での学習時間が限られているので、学校での授業の効率化の工夫が必要である。職員の評価は肯定的であるが、生徒の評価が低いのが気になる。
- ・取組は適切であると思う。授業評価アンケート結果の評価が高く、欠点保持者、欠点科目数ともに減少していることは、素晴らしいと思う。
- ・各教科ともわかり易い授業を心がけていただき、工夫されていることが理解できた。
- ・厳しい環境での先生方の取組で、A、B評価が多いのだと思う。

### (3) キャリア教育（進路指導）について

- ・職業観の育成で就職意識の高揚を図り、働くことの意義や内容を具体的に理解することが、進路決定に結びつき、学習意欲も出てくるのではないか。
- ・まずは出席率の向上、次に在学中の就労、そして進路決定であると思う。中には就労が卒業後も継続する人もいると思う。目標達成には、あと一息のようであるが、徐々に成果は出てきつつある。
- ・取組は適切であると思う。卒業予定者の進路先の決定については、いろいろ苦勞もあると思うが、ぜひ目標が達成できるようお願いしたい。進路実現が定時制の魅力アップに繋がると思う。
- ・危険物試験対策など、個別指導をしていただいた。
- ・外部講師やハローワークとの連携等、大変だと思う。

### (4) 生徒指導について

- ・生徒が中心となって企画立案し、全ての行事に生徒が主体的に取り組む事で、生徒に主

体性、達成感を体感させることができ、素晴らしいと思う。また、家庭との連携は重要である。

- ・ 職員の指導により、長欠者が解消されたことは評価される。行事については、生徒会に投げて、自主性を持たせることにより連帯感が生まれ、成果に結びついたようである。ただ、生徒の評価が少々低いのが気になる。
- ・ 取組は適切であると思う。「生徒会活動、学校行事の活性化」については、重要な取組と思うが、自己評価がAに対して、生徒は「あまり…」、「全く…」の答えが30%超存在していることが気にかかる。分析、考察をお願いしたい。
- ・ 先生同士で生徒一人ひとりの情報交換をされていることは大切である。
- ・ 出席率の向上、生徒会行事等、大変だと思う。

#### (5) 人権教育の推進について

- ・ 人権を尊重し、命を大切にすることを育む為に、自身の身近な体験、経験は貴重な教材になると思う。
- ・ 人権を尊重し、命を大切にすることとは、家庭生活との延長線上にあると思う。家庭との連携をとりながら、職員自身の意識が自然と生徒に伝わるのが大切である。
- ・ 取組は適切であると思う。高校生の自死問題等を考えると、命を大切にすることを育む教育については、更なる充実が望まれる。
- ・ 先生、生徒、共に人権に対する尊重した心を持つことが大切である。
- ・ 人権同和教育講演会等が良いと思う。

#### (6) いじめの防止等について

- ・ いじめは表に出にくい為、生徒の心の声が聞けるような信頼関係を築くことが大切ではないかと思う。
- ・ 保護者、職員の評価に比べ、生徒の評価が低いのが気になる。「隠れいじめ」が無きにしてもあらかも知れない。IT類の発達により、いじめの多様化に対する対策が必要である。
- ・ 取組は適切であると思う。いじめ根絶や人権に関する意識の高まりが見られることを、大変うれしく思う。継続してほしい。
- ・ いじめ0には特に力を入れていただいている。これまで同様、三者で連携をとることが大切である。
- ・ アンケートを行い、早い段階で把握できるように努めていると思う。

#### (7) 校務改革について

- ・ 業務の効率化を図り、職員一人ひとりが問題を抱え込まないよう、全職員で取り組むことは大切なことだと思う。
- ・ 一般企業においても、業務改革については常に取り組んでいるので、今回評価項目に取り上げられたことは良かったと思う。課題を全職員で共有でき、生徒と向きあえる時間も増え、保護者との連携も今まで以上に行えるようになり、成果があったようである。
- ・ 取組は適切であると思う。職員室が明るくなり、保護者との連携が密になったことは、素晴らしいと思う。
- ・ 生徒情報を全職員で共有しているとのことで、とても良いと思う。

### 3 その他

- ・ 全体として、今のやり方を継続していたら、良い方向に進むだろうと期待している。本校生としての誇りを持ってもらうことに期待する。その年、その年で生徒の状況が違っていたり、友人による影響も大きい。学校評価にそれが現れている。
- ・ 校務改革に期待している。生徒・保護者・職員の三者が協力することで、職員の負担を減らすことが、生徒のためであると思う。
- ・ 生徒一人ひとり抱えているものが違い、それぞれに対応して答えていくのは大変なことだと思われるが、子どもたちのために頑張りたい。
- ・ あと少し掘ったら水が出るんだ、もうちょっと頑張りたいと言って、くじけそうになる生徒を励まして欲しい。高校の資格を取りたい一心で入学した生徒たちを励まして、退学者ゼロを目指して欲しい。厳しい環境の中で、先生方も大変かと思うが、ご指導をよろしくをお願いしたい。先生方の懸命な取組に心から敬意を表したい。
- ・ 先生方が熱心にお取り組みいただいている様子がうかがわれた。中学校校長として、進路指導の充実を図り、目的意識をしっかりと持った生徒を育成していかなければならないことを改めて実感した。
- ・ 1年間ありがとうございました。卓球の全国大会もたいへんお世話になりました。
- ・ 厳しい環境の中で、生徒・保護者・職員の連携がとれているように思う。評価でもA、Bが多く良いと思う。

## 5 総合評価

学校評議員の方々からは、高い評価と励ましの言葉をいただき、感謝の気持ちで一杯である。今後も期待に添える運営ができるよう、更に力を尽くしていきたい。

本年度の重点目標は、①出席率の向上、②就労率の向上、③授業改革・基礎学力の向上、④学校行事の活性化、⑤進路指導の充実・自己実現、⑥校務改革・多忙化解消の6つを掲げ、各部その目標達成に向けて取り組んできた。しかし、数値目標を十分に達成できなかったところもあるため、来年度に向けて更に取組を充実させたい。

具体的には、②就労率の向上について8割以上の目標を設定したが、実際には6割強にとどまってしまったことである。このことは、定時制の生徒の中には、中学校以前に不登校経験を持つ生徒が複数名在籍しており、その生徒たちについては、まず登校することから指導を行っている。その結果、重点目標①出席率の向上については9割弱と成果を見せたが、就労率をアップするところまでには至らなかった。しかし、出席率が向上したことにより、働きながら学ぶ意識を少しずつ持たせる環境は整ってきたといえる。スモールステップではあるが、今後も徐々に仕事へも目を向けさせる指導を継続していきたい。

保護者との連携については、保護者総会への出席率が伸び悩んでいる一方、学校行事への保護者の参加協力については伸びを見せており、今後の連携については、生徒会と共に工夫をしながら取組むことで、④学校行事の活性化にも繋げていきたい。

学力向上、成績の向上については、各教科とも分かり易い授業を心掛けると共に、本年度は全職員がアクティブ・ラーニングの研修に積極的に参加しており、更なる③授業改善・基礎学力の向上に取り組んでいるところである。

⑤進路指導の充実・自己実現については、進路指導主事を中心に個別指導や企業見学、進路講演会を実施しているが、生徒の多様なニーズに応えるためにも、今後工夫を重ねていきたい。

いじめの防止等については、日頃から週1回の生徒情報連絡会等を通じ、早期発見に努めているが、現在のところ役割の片務性等の初期段階のいじめ傾向は認められなかった。また、年に2回実施している生徒アンケートについても、内容の充実に努めていきたい。更に、生徒会を中心に「いじめゼロ宣言」を作成しており、この取組についても継続していきたい。

⑥校務改革・多忙化解消については、一人の職員が課題を抱え込むことにならないよう、職場の明るい雰囲気づくりを重視しており、それにより全職員による組織的な指導体制が整いつつある。

## 6 次年度への課題・改善方策

①出席率は向上してきているので、次年度は次のステップとして就業率の向上に力を尽くしたい。その際は、生徒に負担がかからないよう十分に配慮していく。

②保護者との連携を強化し、生徒会活動や学校行事の活性化に繋げる。保護者が学校に赴きやすい環境をつくることが重要である。

③授業改革・基礎学力の向上については、今後もアクティブ・ラーニングを念頭に置いた授業展開ができるよう努力を重ねていく。

④進路指導の充実については、進路講話の内容や企業見学先について、生徒、保護者、職員のニーズを取り入れ、より効果のあるものにしていく。

⑤校務改革・多忙化解消については、今後も明るい職場環境づくりに力を注ぎ、共通理解をもった指導を行うことにより、個々の職員の負担感軽減に努めていく。

また、年度末反省で各部の課題を出し合い、今すぐ改善できるもの、次年度から実施していくために今年度中に見直しが必要なもの、長期的な計画で改善していくものが整理された。総合評価の中で挙げた課題と、その克服のために必要な取組については、各部からの原案をもとに全職員で検討し、共通理解をもった指導に繋げていきたい。